『時 事 直 言』No.1811 2026 年 6 月 16 日国会議員号
[HP] http://chokugen.com/
[FAX] 03-3956-1313 [mail] info@chokugen.com
[X(旧 twitter)] t_masuda2019/ [instagram] t.masuda2026
[Youtube] 増田俊男チャンネル/

時事評論家 増田俊男

イランを核保有に誘導したのはどこの誰で、なんの為か？

イランを核保有に誘導したのは、イランに核を持たせない為に戦争をしている張本人のトランプとネタニヤフである。
オバマ大統領の主導で 2015 年対イラン 6 か国核合意が出来たことでイランのウラン製造は国際原子力機関（IAEA）の監視の下で平和利用に必要な量以上の製造が出来ないことになった。
2015 年から 1 年間の IAEA の査察の結果イランが合意内容を守っていることがわかり 2016 年から 6 か国は対イラン経済制裁を解いた。
2018 年トランプはネタニヤフの強い要望で 6 か国合意から離脱すると同時にイランに対する経済制裁を再開した。
イランが IAEA の監視の目をくぐって平和利用に必要な量以上の濃縮ウランを製造している証拠をイスラエルが掴んだからである。
イラン核合意によってイランの濃縮ウラン製造を制御出来ないことが判明した為トランプとネタニヤフは、対北朝鮮核廃絶 6 者協議の失敗を繰り返さない為には戦争しかないと決意した。
これがトランプの 6 か国核合意離脱の理由である。
すなわちイラン非核化の手段を交渉から戦争に切り替えたのである。
北朝鮮と 6 か国（北朝鮮、韓国、日本、アメリカ、中国、ロシア）との核協議は 2003 年 8 月に北京で始まり三回にわたるトランプ・金正恩会談まで 10 年も続いたが、結局北朝鮮にワシントン DC に届く大陸間弾道ミサイルと 50 個以上の核弾頭を持たせてしまった。
トランプが 6 か国核合意から離脱し、経済制裁再開となったので、イランは IAEA の監視を拒否、ウラン製造の自由裁量権を持つことになり、その結果、2026 年現在イランは核弾頭 12 個分に相当する 450 キログラムの 60%濃縮ウランを持つに至ったのだから、イランにイランが望む核保有に誘導したのはトランプとネタニヤフである。
トランプとネタニヤフが共有しているのは、どんな合意をしても「どうせ持つのだから、持たせて消せばいい」である。
IAEA の監視の目をくぐってまでイランが濃縮ウランを製造するのは第二の北朝鮮になろうとしているからである。
イランにとって北朝鮮は理想の国家モデルである。
吹けば飛ぶような弱小国でもアメリカに届く大陸間弾道ミサイルと搭載する核弾頭を持っていれば、アメリカに堂々と対峙出来る。
北朝鮮が濃縮ウランの製造を開始した時点で、すべての発電所を破壊し、国際金融から遮断し、体制を崩壊しなかったのが間違いだったのである。

従ってトランプとネタニヤフの対イラン基本方針は「イランの主権を奪う無条件降伏である」。
アメリカとイランの 60 日交渉もイラン戦争勝利（イランの無条件降伏）の為に必要な時間稼ぎに他ならない。
イラン戦争の基本を忘れてはならない。
「交渉は芝居、抹殺が本音」。
トランプ発言で株価が高騰している。
風に吹かれる木の葉を見ないで、幹を見よ！
と言いたい。

小冊子 Vol.159 は今週入稿の予定であったが、私の友人（イスラエル軍駐米代表関係者）から今週末もう一度ネタニヤフの魂胆を確かめてからにした。

大好評配信中！増田俊男の「インターネット目からウロコの増田塾」
いつでも繰り返し何度でも視聴可能！
皆様からのご要望にお答えし、「株式指南」を継続的に配信するコンテンツをスタートします。是非、この機会にお申し込みください。
【配信予定内容】〇損をさせない「早朝株式指南」〇本日の世界政治・経済情勢の裏（真実）
★いつでも繰り返し何度でも視聴可能。ご視聴方法：PC・スマートフォン・タブレット ※Youtubeの視聴環境が必要となります。詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社（FAX：03-3956-1313、HP：http://chokugen.com/ ）まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社（FAX：03-3956-1313）までお知らせ下さい。